

『開港4都市景観会議』

私達、身近な都市景観の形成を図ることを目的とした「景観形成市民団体」の集まりである「神戸市景観形成市民団体連絡協議会（景市協）」では、神戸市によって本年4月～9月に実施中の“アーバン リゾート フェア 神戸 '93”の開催主旨に賛同し、これを機会に『開港4都市景観会議』を企画しました。

快適で魅力あるまちを形成するためには、そのまちに日々住み、働く者が主体的に取り組むことがまず重要だと考えます。しかし、これを実現するためには、多くの課題を抱えています。まちなみやまちづくりを効果的に進めるためにはどのような方法があるのか、これをまちぐるみの運動として展開するにはどのようにすればよいのか、行政との役割分担はいかにあるべきなのか、等々、皆で検討し、考え続けなければならない問題は山積しています。

そこで、これらのことについて、他都市を含む多くの方々とは話し合い、解決の糸口を見つけるための場を設けました。いろいろな地区での成功例や失敗談をだしあい、市民主導のまちなみ・まちづくりについて、活動のあり方を共に探りたいと思います。

当面は、日米修好通商条約に基づく開港都市であり、また海と坂のまちでもある「神戸」と類似の歴史性や自然条件をもつ「函館」「横浜」「長崎」で活動を続けておられる諸団体に参加を呼び掛けていますが、この集まりを継続させ、将来的にはもっと輪を広げていければとの思いを持っています。

当日は、各地の居留地の歴史にも詳しい作家の陳舜臣氏をお迎えし、まちの成り立ちについての基調講演をしていただく予定です。また、パネルディスカッションでは、4都市の代表者の他に、フロアからの発言もお願いし、参加している全員が共に考えることのできる場にしたいと思っています。

まちは、固有の歴史と現在の使い手に支えられ、各々のまちなみを形成しています。目指すまちの方向は、まちによって異なるかもしれませんが、また、そうであってこそ、個性あるまちとまちなみが形づくられるのですが、まちなみ・まちづくりを進める上で各地区が共有できる点も多いと思います。これからの自分達のまちを考える上で、このシンポジウムが大きな示唆を与えてくれることを願っています。

海と坂のまちづくり

URBAN
RESORT
FAIR
KOBE'93
新しい神戸の魅力の発見

まちづくりコンベンション in '93

開港4都市景観会議

平成5年9月1日(水)

午前9時30分～12時30分

神戸/旧居留地

オリエンタル ホテル(薔薇の間)

基調講演：陳舜臣(作家)

9:45～

パネルディスカッション「市民主導のまちなみ・まちづくり」

10:30～

《参加団体》

- (神戸) ● 神戸市景観形成市民団体連絡協議会
- ・北野・山本地区をまもり、そだてる会
 - ・旧居留地連絡協議会
 - ・美しい街岡本協議会
 - ・神戸南京町景観形成協議会
- (函館) ● 元町倶楽部
- 函館市伝統的建造物群保存会
 - 函館の歴史的風土を守る会
- (横浜) ● 協同組合馬車道商店街
- 山手まちづくり協議会
 - 協同組合元町SS会
- (長崎) ● 山手地区まちづくり地域団体

定員 約100名

参加費 無料

主催：神戸市景観形成市民団体連絡協議会

共催：神戸市

(問合せ先：神戸市都市計画局計画部アーバンデザイン室)

〒650 神戸市中央区加納町6-5-1

TEL 078-322-5484

海と坂のまちづくり

まちづくりコンベンション in'93

開港4都市景観会議

平成5年9月1日

神戸/旧居留地

オリエンタルホテル(薔薇の間)

— 会 議 次 第 —

○開会あいさつ

○来賓あいさつ

○基調講演 / 陳舜臣氏

○パネルディスカッション

＝ 市民主導のまちなみ・まちづくり ＝

○まちづくりコンベンション宣言

○閉会あいさつ

主催 : 神戸市景観形成市民団体連絡協議会

共催 : 神戸市

パネルディスカッション

＝ 市民主導のまちなみ・まちづくり ＝

- 《参加団体》 (神戸) ●神戸市景観形成市民団体連絡協議会
 ●北野・山本地区をまもり、そだてる会
 ●旧居留地連絡協議会
 ●美しい街岡本協議会
 ●神戸南京町景観形成協議会
- (函館) ●元町倶楽部
 ●函館市伝統的建造物群保存会
 ●函館の歴史的風土を守る会
- (横浜) ●馬車道商店街協同組合
 ●山手まちづくり協議会
 ●協同組合元町SS会
- (長崎) ●山手地区まちづくり地域団体
 ●出島地区協議会

《コメンテータ》 小西阿佐男 (神戸市都市計画局アーバンデザイン室長)

《コーディネータ》 山本 俊貞 (まちづくりコンサルタント)

各地区の市民団体の取り組み

神戸 / 北野・山本地区をまもり、そだてる会

昭和56年、急増する観光客への対策と地区景観の保全・育成を目指して結成。

昭和63年に策定した「まちづくり計画書」に基づいて、「まちなみ研究部会」「マナー・クリーン部会」「基金部会」を設置し、まちづくり計画の具体化に向けて活動を行っている。特に近年では、迷惑看板・自動販売機等撤去運動や花と緑を増やす運動など、悪いところをなくし、良いところを伸ばすという両視点からの取り組みを実践している。

(主な活動内容)

- ミニ・ニュースの発行
- クリーン作戦 (S.56より月1回)
- 路上駐車追放運動 (毎年ゴールデン・ウィーク)
- 地区白書 (北野・山本 1987) の発行 (S.62)
- まちづくり計画の策定 (S.63)
- ノースモーキング・ゾーンの設定 (S.58)
- 北野・山本まちなみフェスタの開催 (毎年秋)
- 迷惑看板・自動販売機等撤去運動 (H.3より定期的に実施)
- 花と緑を増やす運動 (H.4より取り組み)

(会の構成)

6自治会、2婦人会、北野商業連合
 (約2,500世帯、約5,500人、約150店舗)

(表彰等)

- 兵庫県まちづくり功労賞 (昭和63年)
- 建設省まちづくり功労者表彰 (平成元年)
- 神戸市環境功労賞 (平成3年)
- 建設省都市景観大賞 (平成3年)

神戸 / 旧居留地連絡協議会

神戸の居留地は、さまざまな国々が集まり、互いに協力しあって美しいまちを築いていった。その精神に習い、業種の枠を超えて構成。

会員相互の親睦と福祉を増進し、にぎわいと風格のあるまちづくりを進めることを目的に、銀行や博物館から商社、ホテルまで、さまざまな業種が意気投合し、イベント、まちづくり、景観形成と、多彩に活動を展開している。

(主な活動内容)

- 会報「居留地会議」の発行 (年2回)
- プロムナードコンサートの開催 (年8回)
- クリーン作戦の実施 (年4回)
- 花のプロムナード計画の推進 (H.5より)
- 近代洋風建築写真展の実施 (S.63、H.2、H.4、H.5)
- 旧居留地シンポジウムの開催 (S.61、H.3)
- 旧居留地まちづくり計画の作成 (H.2)
- 旧居留地まちづくり宣言 (H.4)

(会の構成)

●旧居留地内の法人 93社

(表彰等)

- 建設省まちづくり功労者表彰 (昭和62年)
- 建設省都市景観大賞 (平成4年)
- ハロー神戸賞 (平成4年)

神戸 / 美しい街岡本協議会

岡本は阪神間で阪急神戸線とJR線が最も接近した丘陵地にあり、良好な住宅地として、また4つの大学が近隣にある文教の街としても知られている。近年、商業地としての開発が行われた結果、交通問題等、生活環境が悪化し、これを解決すべくまちづくり協議会が昭和57年9月に結成された。

これまでに、地域のまちづくりの目標を決め、これを実現するためのルールを定めたが、これからは具体的な「もの」づくりが始まるようとしている。地域に関係する人々皆が知恵を出し合って、岡本らしさを演出しようとしており、今年6月12日、地域の4大学と「若者と共に生きる街」をテーマにシンポジウムを開催し、文教の街としてどのような街づくりをすべきか多くの示唆を得た。

(これまでの経過)

- 岡本地区まちづくり協定締結 (昭和63年)
- 岡本地区地区計画告示 (平成元年)
- 建設省まちづくり功労賞 (平成2年)
- 岡本駅南都市景観形成地域指定 (平成2年)
- 岡本駅南A地区市街地再開発準備組合設立 (平成4年)

(会の構成)

地区面積 約10.8ha
構成員 約700世帯、1,600人

(街づくりの目指すもの)

- うるおいと調和のある美しい街
- 生活基盤の整った街
- 住宅と店舗が共存する街
- 美しさと文化性が感じられる街

神戸 / 神戸南京町景観形成協議会

平成3年、下記の目的を主旨とする協議会として発足。

- (1) 景観形成の為、活気ある都市商業地の特性を活かし、周辺商業地との連携を図りながら、都市商業地を形成する。
- (2) 中国情緒溢れる当地区の特性を活かし、日本の中の中国といえるような異文化を生み出す場とする。
- (3) 中国情緒を活かし、港町神戸を形成する核として、個性的な町づくりを行なう。

(主な事業内容)

- 観光客用本格的中華風トイレ「臥龍殿」建設、維持管理の援助。
- 東屋、ランタン、横門、道路補修の維持管理の援助。
- 毎年旧正月に行われる「春節祭」、秋に催されるグルメイベント「好色広場」の協賛参加。
- 土・日・祭日を中心とした、クリーン作戦。
- 通商路の整備。
- 横門、東屋のイルミネーション。
- 中国文化を伝えるため中国語講座(初級・中級)、中国伝統楽器(胡琴)、書道、気功などの講座を開講。

(会の構成)

南京町商店街振興組合、南京町西通商店街組合 (約130店舗・世帯)

函館 / 元町倶楽部

函館の元町を中心とした西部地区の歴史的環境の魅力を探索することを目的に、昭和60年に結成。

(会の活動)

- 「ハウスウォッチング」活動の奨励・実践。
- 西部地区の環境の探検。
- 「港町・函館における色彩文化の研究—下見板のペンキ色彩の復元的考察を通して」に取り組む。
- 「公益信託函館色彩まちづくり基金」の設立。

(会の構成)

約70人

(表彰等)

- トヨタ財団「身近な環境を見つめよう研究コンクール」最優秀賞 (平成3年)
- 函館市「歴史的景観賞」受賞 (平成3年)
- あしたの日本を創る協会「ふるさとづくり賞 北海道コミュニティ運動協会賞」受賞 (平成4年)
- 北海道「まちづくり功労者賞」受賞 (平成4年)

函館 / 函館市伝統的建造物群保存会

元町末広町伝統的建造物群保存地区を中心とした地域の歴史的景観をまもり、そで、さらに住みよい個性豊かな魅力あるまちとしての発展をめざすことを目的に、平成2年に結成。

(会の活動)

- 歴史的環境の形成に関する活動
- 居住環境の質的な向上に関する活動
- 魅力ある環境の創出に関する活動
- その他

(会の構成)

約80人

(表彰等)

- 函館市「景観形成住民団体」認定 (平成5年予定)

函館 / 函館の歴史的風土を守る会

明治42年(1909)に建てられた「旧北海道庁函館支庁庁舎」(現北海道指定有形文化財)の現地保存問題を契機に、函館の歴史的風土を学び、理解し、これを守りながら、豊かなまちづくりの輪をひろげることが目的に、昭和59年に結成。

(会の事業)

- 会報「れきふう」の発行
- チャリティパーティーの開催
- ふるさと写真公募展の開催
- 「歴風文化賞」の授与
- 講演会、学習会、研究会の開催
- 10周年記念誌「函館のまちなみ」の発行
- 他の市民団体に呼び掛け「函館の町並みを考える会」を結成

(会の構成)

約150人

(表彰等)

- 北海道「まちづくり功労者賞」受賞 (平成元年)

横浜 / 馬車道商店街協同組合

馬車道商店街は、旧居留地(山下町周辺)を含む自由往来地区「関内ほか地区」の一角に位置し、関内門を通過して地区内へ入る乗り合い馬車の道筋に発達した、旧日本人商店街と旧ビジネス街の伝統を持つ、日本最初の近代街路樹(慶応3年)、ガス灯(明治5年)など文明開化の都市技術の最初の着地点でもあった。

昭和48年、商店街活性化事業としての街づくりの検討を開始。

街づくりの基本方向として、①「開港横浜」の伝統を生かした文化色豊かな街づくり、②緑と太陽のあふれる歩行者空間創造、③人間交流の街を定め、車と連携し、街づくりの取り組みを次の2つの側面から実施した。

(主な事業・活動内容)

- ① 馬車道歩行者空間整備 (昭和51、53年)
 - 地区独自のクラシックなデザインのストリートファニチャー等を設置した赤レンガ歩道・広場整備事業
- ② 馬車道街づくり協定の締結(昭和56年)とその後の継続的運用
 - 建築物の1・2階用途、壁面後退、色彩、広告物、歴史資産の活用等をルール化した「街づくり協定」の締結と運用による、商店街としての店舗の充実と個性的まちなみの継続的整備 (実績：約20の建築物)
- ③ イベント等開催 — 馬車道まつり、日曜絵画展、コンサートなど道や広場を活用。

(表彰など)

- 横浜まちなみ景観賞、横浜まちづくり功労者賞 (昭和61年) (構成員)
- 建設大臣・まちづくり功労者賞 (昭和61年) 103 (組合員74、賛助会員29)
- 日本道路会館・日本道路大賞 (昭和63年) 外

横浜 / 山手まちづくり協議会

平成2年7月、山手まちづくり委員会として住宅地、文教地区としての環境維持を目的に発足。平成4年3月「まもろう！歴史のまち」「つくろう！緑のまち」「育てよう！世界のまち」を「山手まちづくり宣言」として現名称に変更。住宅地でありながら港の眺望、または外国人墓地の異国情緒を求めて増加しつつある来街者のだすゴミ、交通問題等にとりくんでいる。街の歴史、環境、現在の問題点とその解決への提言を広報誌「やまて」をおして行っている。

(活動の実績)

- 来街者の多い交差点の信号スランブル化を提言、実行された。
- 両交差点前に建設予定の私営駐車場について、歩行者の安全確保の観点から、無人・自動式から管理人常駐へ設計変更を提言、その後、同計画は中止された。
- 平成4年8月、地区住民による山手再発見ウォークラリーを開催。
- 地区の問題点とその解決への提言、会の活動状況などの掲載広報誌を発行。

(会の構成)

山手東部町内会の一組織	町内会：470世帯、約800人
山手まちづくり協議会	30人（地域内学校、教会関係者を含む）
代表幹事 鈴木朝藤	横浜市中区山手町60 045(662)1099

横浜 / 協同組合元町SS会

元町商店街は、かつては外国人が多く住む山手地区との関係の強い商店街であったが、現在はファッション関連の店舗が多い。元町通りは幅員8mと狭いため、昭和30年に壁面線指定を受け、30年かけて全店舗の一端部分1.8mの壁面後退による歩行者空間づくりを完了しているが、昭和60年代後半に入り、執行部の世代交替が行われ、新しい時代に向けた街づくりのコンセプトづくりを行い、市、県など行政を組み合わせる街づくり協議会を結成、事業化検討を開始し、昭和60年に事業着手した。

(主な事業・活動内容)

- ①道路空間整備事業（昭和60年）【元町街づくり協議会】
道路および敷地内歩行者空間を再整備し、電柱などを撤去。歩きやすさとヨーロッパ的な落ち着きのあるシンクな街路とする。歩車共存。土日は歩行者天国へ切り替え。
 - ②元町街づくり協定の締結（昭和60年）と運用による元町らしい個性あるまちなみづくり
建築物などの計画事前調整、看板類の整備、リングシャッター（ナイトショッピング）の推進。
 - ③イベント等一チャームセール開催、季節毎のカラフルなバナーやイルミネーションによる通りの演出（表彰など）
- 横浜まちなみ賞受賞、横浜まちづくり功労者賞（昭和61年）
 - 経済同友会・楽しい都市づくり賞（昭和61年）
 - SDA特別賞（昭和61年）

長崎 / 山手地区まちづくり地域団体

平成2年、旧居留地である東山手・南山手地区のまちづくりを考える会として発足。景観形成地区の指定に際しては地域住民の代表として、景観形成基準等の作成の協議・検討を行った。発足後、まちづくりの先進都市である神戸、京都、倉敷、高山市の視察・研修を行い、まちづくり、まちなみ保全・育成の運動に取り組む。当団体は設立してまだ日も浅く、本格的にまちづくりに取り組むのはこれからだが、イベントやフォーラムを開催し住民啓蒙に努めている。今年度は住民アンケートを実施、住民が望むまちづくりや団体への要望を把握し、これを今後の活動方針の参考として、まちづくりを実施していきたい。

(主な活動内容)

- まちづくりイベント「エキゾチック山手」の開催（毎年10月）
- まちづくり啓発フォーラムの開催（毎年10月）
- 住民アンケートの実施（平成5年）

(会の構成)

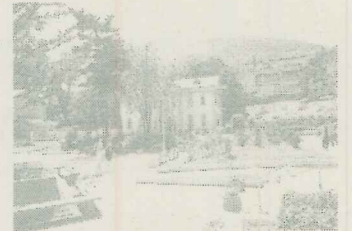
- 12自治会、2商店街
- 約1,800世帯、約4,000人、約80店舗
- 建設省都市景観大賞（平成4年）

旧居留地の成り立ち

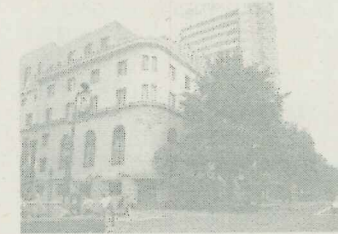
安政5年(1858)に締結された日米修好通商条約は、長年にわたる幕府の鎖国政策に終止符をうち、箱館(函館)、神奈川(横浜)、長崎、新潟、兵庫(神戸)の開港と、江戸、大坂の開市を義務づける。これに基づき、新潟を除く4開港場の一区域に外国人だけの居住を認めた「居留地」が整備され、また、その周辺には日本人と外国人が混ざりあって住むことを認めた「雑居地」が設定される。居留地制度は明治32年(1899)の条約改正によって撤廃されるが、以後もこれらの地を通して、外国文化が日本に注ぎこまれた。

□ 函 館

函館の居留地は、大町の海面を干埋を埋立て、居留地とする計画であったが、狹窄失敗に終わり、外国人のほとんどは市内に雑居した。寛政11年(1799)、函館に奉行所が置かれ、以来、函館は、北海道の政治、経済、文化の中心地として、また北海道の玄関口として、さらには北の貿易港、北洋漁業の基地として発展を続けてきた。函館は、明治40年(1907)の大火で多くの遺産を喪失したものの、先人達の復興の努力によって、今日でも元町や本広町を中心に、明治期の洋風の大規模建築物や洋折衷の住宅などが数多く残されており、坂道など一体となって異国情趣豊かな町並みが形成されている。



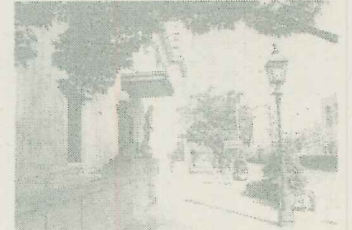
□ 横 浜



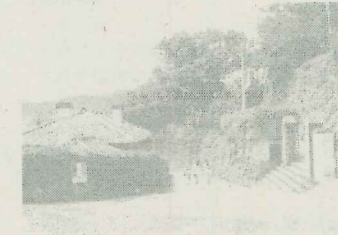
修好通商条約には神奈川を開港することが取り決められていたが、幕府は、その対岸にあり東海道から離れた横浜を開港場とした。当時の横浜は、わずか87戸の集村で、現在、国内と呼ばれる地に、外国人居留地と日本人居住地の2つに区分された全く新しい街がつくりあげられた。また、その東南の山手一体も居留地として整備される。これらの地域では、関東大震災や第二次大戦時における戦災、あるいは戦後の連合軍による接収など、たび重なる苦難の時期を経験するものの、現在でも近代建築物がいくつも保存、常用されているなど、文明開化時代の名残を色濃く留めている。

□ 神 戸

兵庫開港は、人家の多い既成の街を避け、当時の神戸村が選ばれたもので、居留地も田生田川（現在のフラワーロード）西岸の川尻25.6haに設けられた。西歐的な意識の下に、街路、遊歩道、公園、街路樹、下水道、街灯などを備え、また、平均1,000㎡の規模をもつ地所は、126区画に整然と分けられていた。居留地制度が撤廃された後も、神戸の都心業務地として発展し、現在も大正から昭和初期にかけて建てられた「近代洋風建築物」が数多く残されている。隣接する「南原町」や、かつて雑居地の一部であった「北野・山本地区」とともに、特徴あるまちなみを形成している。



□ 長 崎



長崎は元亀2年(1571)にポルトガル人の来航により開港、鎖国時代の200余年を通して、わが国唯一の貿易港として繁栄した。修好通商条約に基づく居留地は、丘陵地を造成したり海浜を埋立てて整備されたもので、8地区に分けられており、海岸に近い方から上等地、中等地、下等地に分けられていた。上等地には貿易のための商館や倉庫が、中等地にはホテル、銀行、病院、娯楽施設が並び、眺望のよい山手の下等地には、洋風の住宅・領事館が建てられていた。現在でも、東山手・南山手地区を中心に、洋館、石畳、石段、倒滑、樹木など、居留地時代のたぐいまれな街並みを留めている。

開港4都市景観会議 まちづくりコンベンション宣言（案）

快適で魅力あるまちを形成するためには、そのまちで日々暮らし、働く者が、理想の実現に向けて主体的に取り組むことが、まず重要である。

今日ここに、開港都市であり海と坂のまちである「函館」
「横浜」「神戸」「長崎」において、まちなみ・まちづくりの活動を続けている市民団体が集い、運動展開のあり方を共に探った。

まちは、固有の歴史と現在の使い手に支えられ、各々のまちなみを形成している。目指すまちの方向は、まちによって異なり、そうであってこそ、個性あるまちとまちなみが形づくられるのであるが、まちなみ・まちづくりを進める上で各地区が共有する課題も多い。これからの自分達のまちを考える上で、この会議が大きな示唆を与えてくれたと確信する。

今後も、引き続きこの会議を継続させ、さらに他の都市や地域にも輪を広げていくことを確認するとともに、市民主導のまちなみ・まちづくりを、それぞれのまちで広範に展開する努力を続けることを、ここに宣言する。

平成5年9月1日

開港4都市景観会議 参加者一同

陳舜臣氏の基調講演から（要旨）

＝ 日本における居留地の、都市発展や文化形成に果たした役割 ＝

函館、横浜、神戸、長崎、この4つの都市が皆元町というまちを持っていたというのも奇縁でございますが、もう1つ共通しているのは中国のお寺があるということです。関帝廟や孔子廟がございます。

そして、きょうのテーマであります居留地も、共通した存在だったんでございます。修好条約で日本の居留地は、柵を設けないということをお願いしております。柵を設けないということは、やや雑居に近い。そして北野町あたりに住まいを持つ。そのようにして、お互いの風俗・習慣を知らせ合うということ、これが大事でございました。居留地というのは歴史的に、そういう有意義なものを持っていたと思うんです。人々が集まって文明ができるんだと。

中国文明といわれているものは、黄河の中流に生まれた文明ですが、交通の便利が非常によかったです



暖をつくって分けたんです。そうするとその魚たちは、だんだん弱ってきましてだめになっちゃう。一緒に入れると元気なんです。その人にいわせると、これは魚でも、ほかの魚が来ると緊張するんです。ある一種のテンションが起こって、そしてみんな元

人が交わるところから、文明が生まれる

ころなんです。これはメソポタミアもそうなんです、いろんな人が交わるところなんです。

居留地についても、そのことを考えるんです。ずっと同じ生活をしていると発達はない。そして違ったものが入ってきたときに、その刺激を受けて文化は発達するんだ。そしてチャイルドが言うように、そういう文明、あるいは文化というものは都市から起こるんだということなんです。文明が発達したところを見ると、みんな都市といわないでも、人の集まる場所であったと言えると思うんです。

ある人に聞いたんでございますけれども、漁業でとった魚は鮮度を保つために船の中の生けすに放して泳がしているんです。ところが上がってから魚を分けるのは面倒なものですから、魚の種類によって、

気なんです。ところが自分たちだけの仲間に分けますと、お互いに寄りかかって、何となくなあなあ主義になってしまっ、しかも1匹がだめになると、みんなだめになるというんです。これは人間も同じでございまして、いろんな人が交わっている方が、実はバイタリティというんですか、エネルギーが生まれるんじゃないかならうかと思ひます。

私は居留地というのはそういう場であったと思うんです。そこから芽生えてきたものが日本の近代化を促進した重要なポイントだったと思ひます。

今日のこういう会合も続けた方がいいのでございまして、これは第1回だそうでございまして、第1回だけで第2回がないということのないように続けていただきたいと思ひます。

神戸市景市協（神戸市景観形成市民団体連絡協議会）とは

神戸市都市景観条例に基づく景観形成市民団体である「北野・山本地区をまもり、そだてる会」「旧居留地連絡協議会」「美しい街岡本協議会」「神戸南京町景観形成協議会」が集まって、平成5年4月に発足した会です。市民団体相互の連絡調整や情報交換、親睦を図り、身近な景観形成を推進するために活動することを目的としています。

神戸市景観形成市民団体連絡協議会ニュース

第2号

神戸市景観形成市民団体連絡協議会
事務局：神戸市都市計画局計画部アーバンデザイン室

『開港4都市景観会議』を開催

去る9月1日、当会が主催して「開港4都市景観会議」を開催しました。これは、神戸と同様の開港都市であり、また海と坂のまちでもある函館、横浜、長崎の市民団体にも呼び掛け、市民主導のまちなみやまちづくり活動のあり方を共に考えるために企画したものです。神戸の北野・山本、旧居留地、岡本、南京町の各地区を含め、12の団体が集いました。

会議は、神戸在住の作家である陳舜臣氏の基調講演（講演内容は4ページに概要を紹介しています）から始まりました。その後、各都市の代表の方から、これまでどのような趣旨のもと、



約200人が参加して開かれた「開港4都市景観会議」
(9月1日、オリエンタルホテルにて)

開港4都市景観会議

まちづくりコンベンション宣言

快適で魅力あるまちを形成するためには、そのまちで日々暮らし、働く者が、理想の実現に向けて主体的に取り組むことが、まず重要である。

今日ここに、開港都市であり海と坂のまちである「函館」「横浜」「神戸」「長崎」において、まちなみ・まちづくりの活動を続けている市民団体が集い、運動展開のあり方を共に探った。

まちは、固有の歴史と現在の使い手に支えられ、各々のまちなみを形成している。目指すまちの方向は、まちによって異なり、そうであってこそ、個性あるまちとまちなみが形づくられるのであるが、まちなみ・まちづくりを進める上で各地区が共有する課題も多い。これからの自分達のまちを考える上で、この会議が大きな示唆を与えてくれたと確信する。

今後も、引き続きこの会議を継続させ、さらに他の都市や地域にも輪を広げていくことを確認するとともに、市民主導のまちなみ・まちづくりを、それぞれのまちで広範に展開する努力を続けることを、ここに宣言する。

平成5年9月1日

開港4都市景観会議 参加者一同

そして最後に、この会議を今後とも継続させ、市民主導のまちなみ・まちづくりを各地で広範に展開することを謳った「まちづくりコンベンション宣言」を参加者一同が採択し、盛り上げのうちに閉会しました。

さまざまに続けられている市民活動

＝ 他都市から参加された市民団体の紹介 ＝

開港4都市景観会議には、他都市から次のような団体の他、長崎から「出島地区協議会」が参加されました。来年もまた集うことを約束しています。

横浜／馬車道商店街協同組合

馬車道商店街は、旧居留地(山下町周辺)を含む自由往来地区「関内ぬい地区」の一角に位置し、旧日本人商店街と旧ビジネス街の伝統を持つ。日本最初の近代街路樹、ガス灯(明治5年)など文明開化の都市技術の最初の着地点でもあった。

昭和48年、商店街活性化事業としての街づくりの検討を開始。

街づくりの基本方向として、①「開港横浜」の伝統を生かした文化色豊かな街づくり、②緑と太陽のあふれる歩行者空間創造、③人間交流の街を定め、市と連携し、街づくりの取り組みを実施。

(主な事業・活動内容)

①馬車道歩行者空間整備(昭和51、53年)

赤レンガ歩道・広場整備事業

②馬車道街づくり協定の締結(昭和50年)

建築物の1・2階用途、壁面後退、色彩、広告物、歴史資産の活用等をルール化。

(実績:約20の建築物)

③イベント等開催

馬車道まつり、日曜絵画展、コンサート。

(表彰など)

- ・横浜まちなみ景観賞、横浜まちづくり功労者賞(昭和61年)
- ・建設大臣・まちづくり功労者賞(昭和61年)
- ・日本道路会議・日本道路大賞(昭和63年)他

(構成員)

103(組合員74、賛助会員29)

横浜／協同組合元町SS会

元町商店街は、かつては外国人が多く住む山手地区との関係の強い商店街であったが、現在はファッション関連の店舗が多い。元町通りは幅員8mと狭いため、昭和30年に壁面線指定を受け、30年かけて全店舗の一階部分1.8mの壁面後退による歩行者空間づくりを完了しているが、昭和50年代後半に入り、執行部の世代交替が行われ、市・県など行政を組み入れた街づくり協議会を結成、事業化検討を開始し、昭和60年に事業着手。

(主な事業・活動内容)

①道路空間整備事業(昭和60年)[元町街づくり協議会]

道路および敷地内歩行者空間を再整備し、歩車共存化。土日は歩行者天国へ切り替え。

②元町街づくり協定の締結(昭和60年)

建築物などの計画事前調整、看板類の整備、リングシャッターの推進。

③イベント等

チャタリングセール、バナーやイルミネーションによる通りの演出。

(表彰など)

- ・横浜まちなみ景観賞、横浜まちづくり功労者賞(昭和61年)
- ・経済同友会・美しい都市づくり賞(昭和61年)
- ・SDA特別賞(昭和61年) 他

(構成員)

227店舗

横浜／山手まちづくり協議会

平成2年7月、山手まちづくり委員会として住宅地、文教地区としての環境維持を目的に発足。平成4年3月、「まもろう!歴史のまち」「つくろろう!緑のまち」「育てよう!世界のまち」を「山手まちづくり宣言」として現名称に変更。住宅地でありながら異国情緒を求めて増加しつつ来る来街者のだすゴミ、交通問題等にとりくんでいる。街の歴史、環境、現在の問題点とその解決への提言を広報誌「やまて」をとおして行っている。

(活動の実績)

- ・来街者の多い交差点の信号スクランブル化を提言、実行された。
- ・同交差点前に建設予定の私営駐車場について、

歩行者の安全確保の観点から、無人・自動式から管理人常駐へ設計変更を提言、その後、同計画は中止された。

- ・平成4年8月、地区住民による山手再発見ウォークラリーを開催。
- ・地区の問題点とその解決への提言、会の活動状況などの掲載広報誌を発行。

(会の構成)

山手東部町内会の一組織

(町内会:470世帯、約800人)

山手まちづくり協議会

30人(地域内学校、教会関係者を含む)

函館／函館市伝統的建造物群保存会

元町末広町伝統的建造物群保存地区を中心とした地域の歴史的景観をまもり、そだて、さらに住みよい個性豊かな魅力あるまちとしての発展をめざすことを目的に、平成2年に結成。

(会の活動)

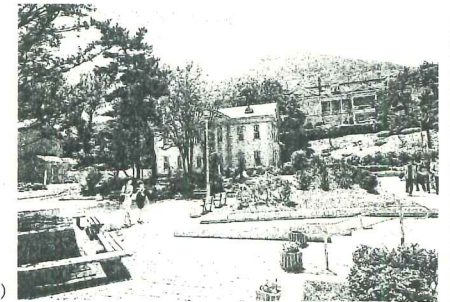
- ・歴史的環境の形成に関する活動
- ・居住環境の質的な向上に関する活動
- ・魅力ある環境の創出に関する活動

(会の構成)

約80人

(表彰等)

- ・函館市「景観形成住民団体」認定(平成5年予定)



函館／元町倶楽部

函館の元町を中心とした西部地区の歴史的環境の魅力を探査することを目的に、昭和60年に結成。

(会の活動)

- ・「ハウスウォッチング」活動の提唱・実践。
- ・西部地区の秘境の探検。
- ・「港町・函館における色彩文化の研究一下見板のペンキ色彩の復元的考察を通して」
- ・「公益信託函館色彩まちづくり基金」の設定。

(会の構成)

約70人

(表彰等)

- ・トヨタ財団「身近な環境を見つめよう研究コンクール」最優秀賞(平成3年)
- ・函館市「歴史的景観賞」受賞(平成3年)
- ・あしたの日本を創る協会「ふるさとづくり賞」受賞(平成4年)
- ・北海道「まちづくり功労者賞」受賞(平成4年)

函館／函館の歴史的風土を守る会

明治42年(1909)に建てられた「旧北海道庁函館支庁庁舎」(現北海道指定有形文化財)の現地保存問題を契機に、函館の歴史的風土を学び、理解し、これを守りながら、豊かなまちづくりの輪をひろげることを目的に、昭和53年に結成。

(会の事業)

- ・会報「れきふう」の発行
- ・チャリティパーティの開催
- ・ふるさと写真公募展の開催
- ・「歴風文化賞」の授与
- ・講演会、学習会、研究会の開催
- ・10周年記念誌「函館のまちなみ」の発行
- ・「函館の町並みを考える会」の結成

(会の構成)

約150人

(表彰等)

- ・北海道「まちづくり功労者賞」受賞(平成元年)

長崎／山手地区まちづくり地域団体

平成2年、旧居留地である東山手・南山手地区のまちづくりを考える会として発足。景観形成地区の指定に際しては地域住民の代表として、景観形成基準等の作成の協議・検討を行い、まちづくり、まちなみ保全・育成の運動に取り組む。

イベントやフォーラムを開催し住民啓発に努めている。今年には住民アンケートを実施。

(主な活動内容)

- ・まちづくりイベント「エキソチック山手」の開催(毎年10月)
- ・まちづくり啓発フォーラムの開催(毎年10月)
- ・住民アンケートの実施(平成5年)

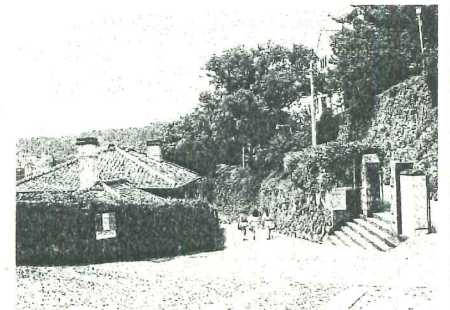
(会の構成)

12自治会、2商店街

(約1,800世帯、約4,000人、約80店舗)

(表彰等)

- ・建設省都市景観大賞(平成4年)



景市協では、『開港4都市景観会議』の開催を企画しています。

快適で魅力あるまちを形成するためには、そのまちに日々住み、働く者が主体的に取り組むことがまず重要だと考えます。しかし、これを実現するためには、多くの課題を克服しなければなりません。そこで、その方策について、多くの方々と話し合い、解決の糸口をみつけるための場を設け

陳舜臣氏をお迎えし、まちの成り立ちについての基調講演をしていただく予定です。また、パネルディスカッションでは、4都市の代表者の他に、フロアーからの発言もお願いし、参加している全員が共に考えることのできる場にしたいと思っています。

まちは、固有の歴史と現在の使い手に支えられ各々のまちなみを形成しています。目指すまちの

9月1日(水) 9:30am~12:30
旧居留地オリエンタルホテル

海と坂のまちづくり
開港4都市景観会議

たものです。市民主導のまちなみ・まちづくりについて、活動のあり方を探りたいと思います。

参加は、日米修好通商条約に基づく開港都市であり、また、海と坂のまちでもある「神戸」と類似の歴史性や自然条件をもつ「函館」「横浜」「長崎」で活動を続けておられる諸団体にも呼び掛けています。

当日は、各地の居留地の歴史にも詳しい作家の

方向は、まちによって異なるかもしれませんが。また、そうであってこそ、個性あるまちとまちなみが形づくられるのですが、まちなみ・まちづくりを進める上で各地区が共有できる点も多いと思います。これからの自分達のまちを考える上で、このシンポジウムが大きな示唆を与えてくれることを願っています。

多くの方の参加を、心よりお待ちしております。

＝美・緑・花キャンペーンに参加を＝



神戸市ではアーバンリゾートフェア神戸'93を機会に、「美・緑・花キャンペーン」が展開されています。まちの一層の美化を図るために、住民・企業・商店街の皆さん、あるいは行政が一体となって、清掃や緑化・飾花を進めていこうとするものです。

北野・山本地区、旧居留地、元町地区、岡本地区周辺はこのキャンペーンのモデル地区に指定され、各々の活動が展開されていますが、実効あるものにするためには、フェア期間中だけでなく息の長い取り組みが必要です。今後とも、美しいまちづくりを目指して、会員各位の積極的なご理解とご協力をお願いします。

都市景観形成市民団体連絡協議会 委員名簿

北野・山本地区を まもり、そだてる会	旧居留地連絡協議会	美しい街岡本協議会	神戸南京町 景観形成協議会
◎ 浅木 隆子	○ 野澤 太郎	○ 丹羽 正	生島 巖彦
※ 八木 裕	※ 南 嘉明	※ 戸沢 シズ子	○ 曹 英生
人見 陽一郎	森 範二	山田 正治	※ 施 運棠
河合 利一	佐久間泰夫	有本 正春	高橋 喜久二
菊地 由紘	清水 伸二	田中 三郎	黄 棟和

◎：会長 ○：副会長 ※：常任委員

神戸市景観形成市民団体連絡協議会ニュース

創刊号

神戸市景観形成市民団体連絡協議会
事務局：神戸市都市計画局計画部アーバンデザイン室

神戸市景観形成市民団体連絡協議会 神戸市景市協(略称)が発足しました

身近な都市景観の形成を図ることを目的にした景観形成市民団体(北野・山本地区をまもり、そだてる会、旧居留地連絡協議会、美しい街岡本協議会、神戸南京町景観形成協議会の4組織)が集まって、神戸市景観形成市民団体連絡協議会(略称「神戸市景市協」)が去る4月23日、発足しました。そしてその後、6月15日には第1回委員総会を開き、各地区が抱える課題について話し合いました。

これからも情報交換や研修会を通じて、共に悩みや成果をだしあい、市民主体のまちなみ・まちづくり運動の一層の盛り上がりを目指します。各地区から選ばれた5名ずつの委員が運営することになっていますが、全会員のご理解とご支援があつてこそ成り

立つものです。景市協の広範な活動を可能とするため、皆様方のご協力をお願いします。



第1回委員総会では、市民主体のまちなみ、まちづくりについて活発な意見交換がなされました。

＝ごあいさつ＝

神戸市景市協 会長 浅木 隆子



北野・山本地区をまもり、そだてる会の浅木でございます。

景市協は神戸市内の4つの景観形成市民団体が集まって発足しましたもので、その中で、北野・山本地区が一番古い会だということで、最初に会長をおおせつかりました。

私ども北野・山本地区をまもり、そだてる会も、まちなみなり環境をよくするために活動を続けてきたわけですが、活発な活動を続けていく上でのいろいろな問題や課題を抱えています。そのような悩みを、神戸市内で同じような活動をしておられます他の景観形成市民団体の方と一緒に考え、あるいは情報交換することは非常に有意義なことではないかと考えます。

景観なりまちづくりは、そこに住んだり働いたりしている人が、自分達のできる範囲での力をだしあうことがまず必要ではないかと思えます。そして、これを一歩でも前進させるための方法を、この景市協で勉強させていただけたらと思っております。この一年、微力を出させていただきますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、事務局を引き受けていただきました神戸市にも、紙面をお借りしましてお礼申し上げます。

ニュースの愛称を お寄せ下さい

このニュースを会員の皆様の身近な会報としていただくために、愛称を募集します。メモ書きで結構です。ご住所、お名前をご記入の上、各地区の委員にお届け下さい。

(2) 北野・山本地区をまもり、そだてる会

北野・山本地区では、昭和50年代から急激に観光地化、商業地化が進行し、観光公害やまちの雰囲気が悪くなるという問題が顕在化してきました。そこで、6自治会と2婦人会、それに北野商業連合という9つの組織が集まりまして、昭和56年につくりましたのが、当会です。

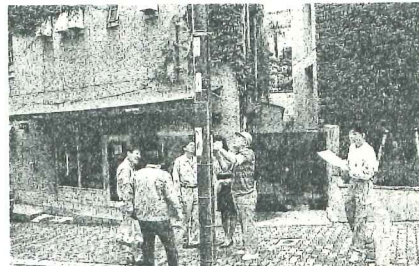
昭和62年には「地区白書」、翌63年には「まちづくり計画書」をつくりました。

実践活動としては、グリーン作戦は10年以上、毎月1回、続けていますし、最近では、「迷惑看板・自動販売機等をなくす運動」や「迷惑駐車・迷惑タクシーをなくす運動」といったようなマイナス面をなくす活動に加え、「花と緑を増やす運動」に取り組みましたり、あるいは毎年秋に「北野・山本まちなみフェスタ」というお祭りを催しています。

私達は30年前の静かさを取り戻すべきだと言っているわけでは決してありません。ただ、現在の

ようなあまりにも安易な商業地化、観光地化が今後も続けば、住宅地としてだけではなく、観光地や商業地としての魅力も失うことになるのではないのでしょうか。

いずれにしても、このようなまちづくり運動は、根気よく続けることが重要だと思います。そのためには、地区内の全ての住民や事業者が活動に参加していただくことが前提で、当面の最大の課題もここにあると考えています。



いろいろに展開されている各地区の活動 旧居留地連絡協議会

旧居留地の会ができましたのは戦前で、親睦団体として我々の先輩がつくったものです。

昭和58年に神戸市が旧居留地を都市景観形成地域に指定されるということで、これを機に景観形成市民団体の認定を昭和60年に受けました。地域指定による各企業の利害問題が議論されたのですが、まちに人が集まればいいのではないかと、小をすて大をとろうということで、会員の大方の賛成を得ることができました。昔は5時を過ぎると電気が消えて女性が帰るのを怖がったくらいですが、おかげさまで今は賑やかになりました。

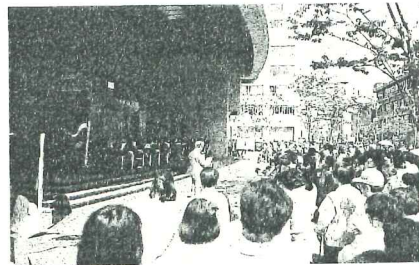
当会の特徴の一つに、大企業でも小さな会社でも年会費が一律で、平等に発言できるということがあります。例えば、自動販売機が汚いのではないかと提案がされまると、皆さんビルの中に入れられ、現在、まちなかにはみられません。また、広告物の自主規制も行っています。

この他に、会の活動としては、プロムナー

ドコンサートなどのイベントをしましたり、花と緑のまちづくりを進めたりしています。

会員は全て企業ですが、これからのまちづくりには企業市民という視点から対処すべきで、企業も市民も一緒になって取り組む必要があると考えています。

いずれにしても、当会では親睦が基本で、遊んでいるうちに仲良くなり、意見が言いあえるようになる、というのが現在のあり方です。



美しい街岡本協議会

岡本では、もともと農地であったところに急速な乱開発が始まり、このままではどうにもならなくなるといった心配から、昭和57年に協議会を結成しました。

結成以来10余年をかけて、やっとルールづくりができたといえます。「まちづくり協定」「地区計画」「都市景観形成地域」で、建物の新築や建替時等には道路から1mのセットバックをしようとか、風俗営業は禁止するといったような約束を定めています。

これからはハード面での整備時期にはいるわけですが、これまで以上の歳月が必要です。

このように、まちづくりは非常に息の長い活動ですから、組織もそれにあつたものであることが求められます。ところが、お世話をする我々役員は、結成以来ほとんど変わっていません。このことは非常に問題で、次の世代を育てることが、今、一番大切だと感じています。

岡本地区の特徴は文教地区という点にあります。住民と学生と事業者がうまく溶けあつたまちづくりを目指し、去る6月にも「若者と共に生きる街」というテーマでシンポジウムを開催しました。この場で、大学生にがき大将のリーダーになって下さいとお願いしたのですが、地区の小学生を集めてスポーツなり、グリーン作戦に参加してもらい、そういった中から次の後継者が生まれないと期待してのことです。



= 各地区からの報告 =

神戸南京町景観形成協議会

南京町は、明治元年に神戸が開港した際、欧米の先進諸国と日本の間で貿易協定が結ばれましたが、中国の華僑は条約の対象にならず、居留地の生活が認められなかったために、その隣接地に集まって住んだのがはじまりです。そのために南京町は、雑然とした人間の集まりという雰囲気、景観的にも他地区とは異なる特殊な存在となっています。

第2次大戦後、南京町は徐々にさびれ、寂しく暗いイメージだったのですが、昭和61年から「春節祭」を始め、以後、多くの方に来ていただくようになりました。今では神戸観光の一つとして、知名度が高まっています。南京町に似合うイベントということで中国の旧正月を演出したのですが、マスコミにも取り上げられ、まちを見直していただく良いきっかけになったようです。

ただ、多くの方に来ていただく問題もできます。トイレの問題はかなり前から言われており

まして、先般、商店街振興組合と景観形成協議会とで「臥龍殿」というトイレをつくり、人気を得ています。

このように南京町景観形成協議会は、どちらかというと住民よりも事業者寄りなのですが、グリーン作戦も取り組むべき大きな課題だと考えていますし、露店や看板についても独自のルールをつくっていきまして、事業者の皆さんに理解を広げていきたいと思っています。

